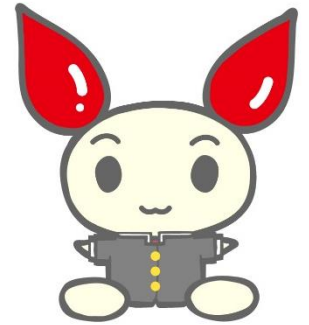
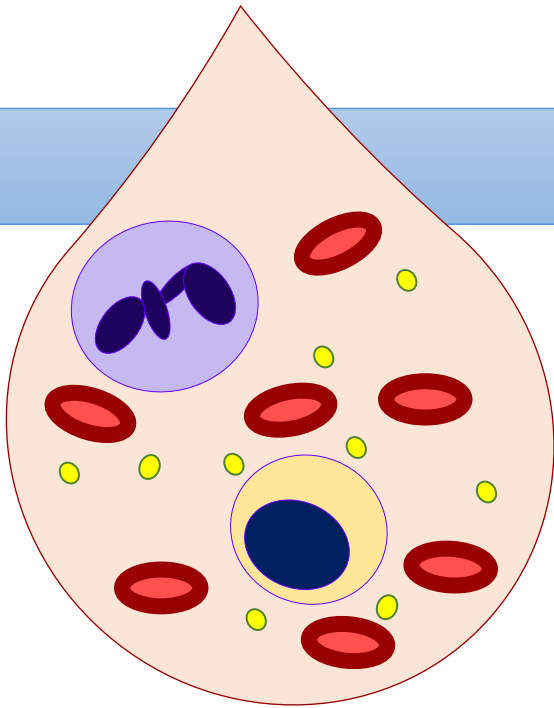


# 血液について



## 血液の役割



**赤血球** 酸素を肺から体内へ運ぶ

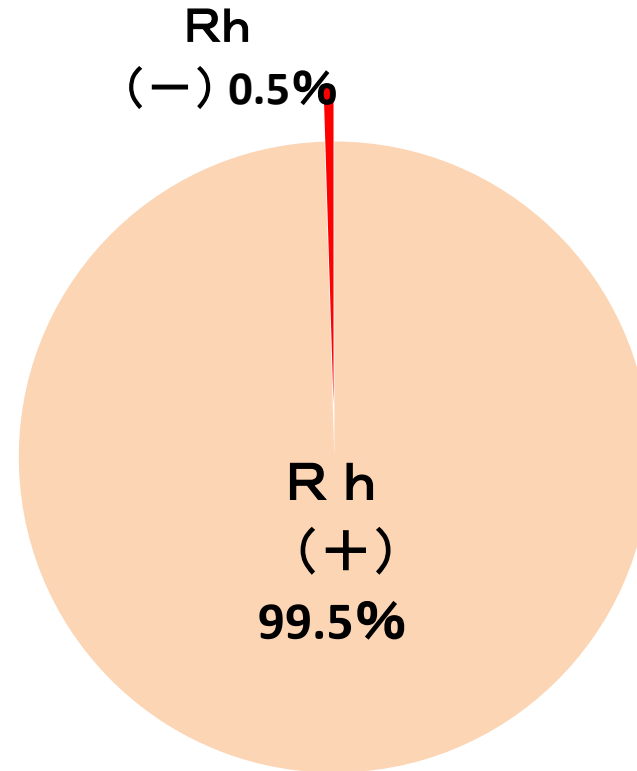
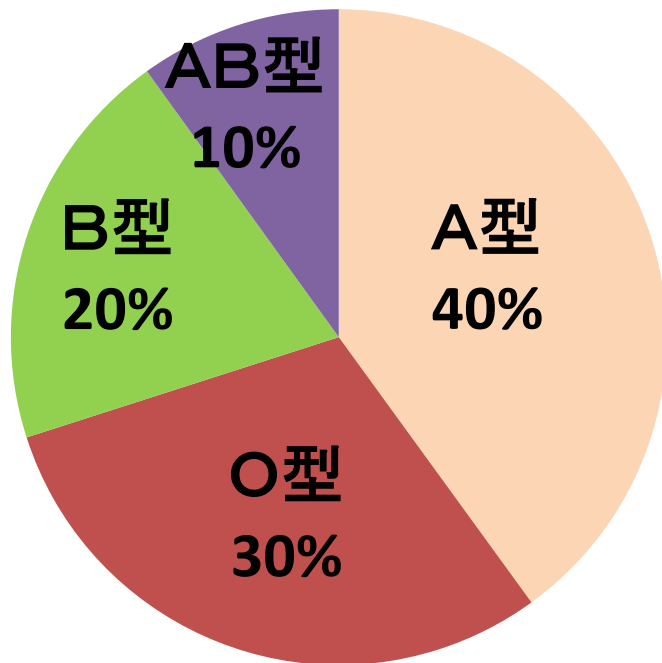
**血小板** 出血時血管をふさぐ(止血)

**血漿** 栄養分を運ぶ

**白血球** 細菌(ウィルス)と戦う

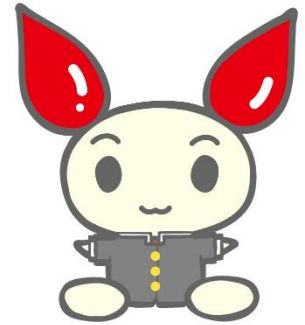
**血液は人が生きていくうえで、必要な成分です。**

# 日本人の血液型の割合は？



A型 : O型 : B型 : AB型 = 4 : 3 : 2 : 1  
Rh (-) は200人に1人

# 献血について



# 献血はなぜ必要？



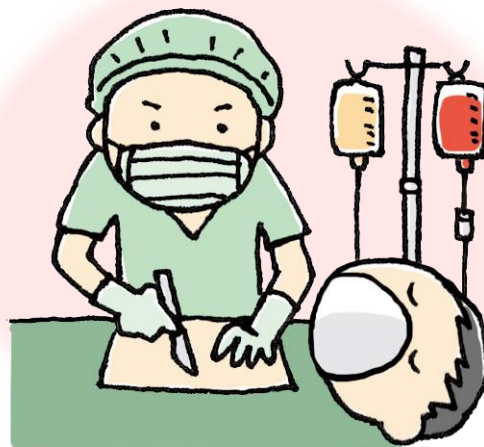
- ①技術が発達した今も血液は人工的に作れない
- ②輸血を受けている患者さんは日本国内で一日約3千人  
⇒県内では毎日約200人の献血協力が必要です。
- ③血液は生きている細胞なので、長期保存ができない
  - ⇒ 赤血球製剤 21日間
  - 血漿製剤 1年間（凍結保存）
  - 血小板製剤 4日間

**献血は、一時期に偏ることなく継続的な協力が必要です。**

# 血液が必要になるのは どのようなときだと思いますか？



**大けがで  
大量出血したとき**



**手術で突然  
大量出血したとき**



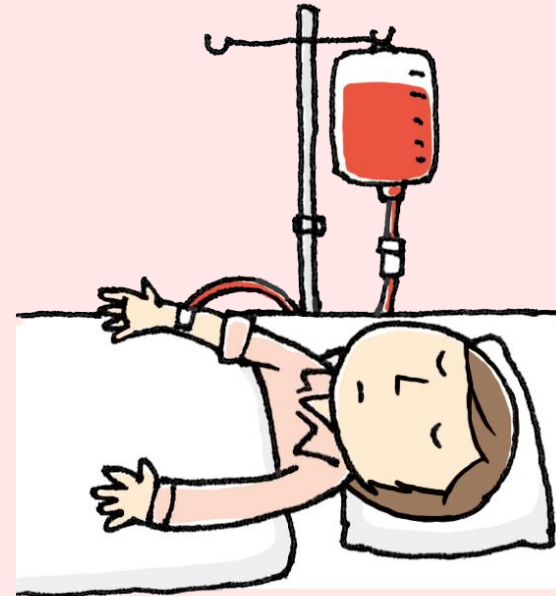
**病気で  
健康な血液が  
造れないとき**

**体に必要な血液が不足したとき、輸血が必要になります**

# 輸血が必要になるとき



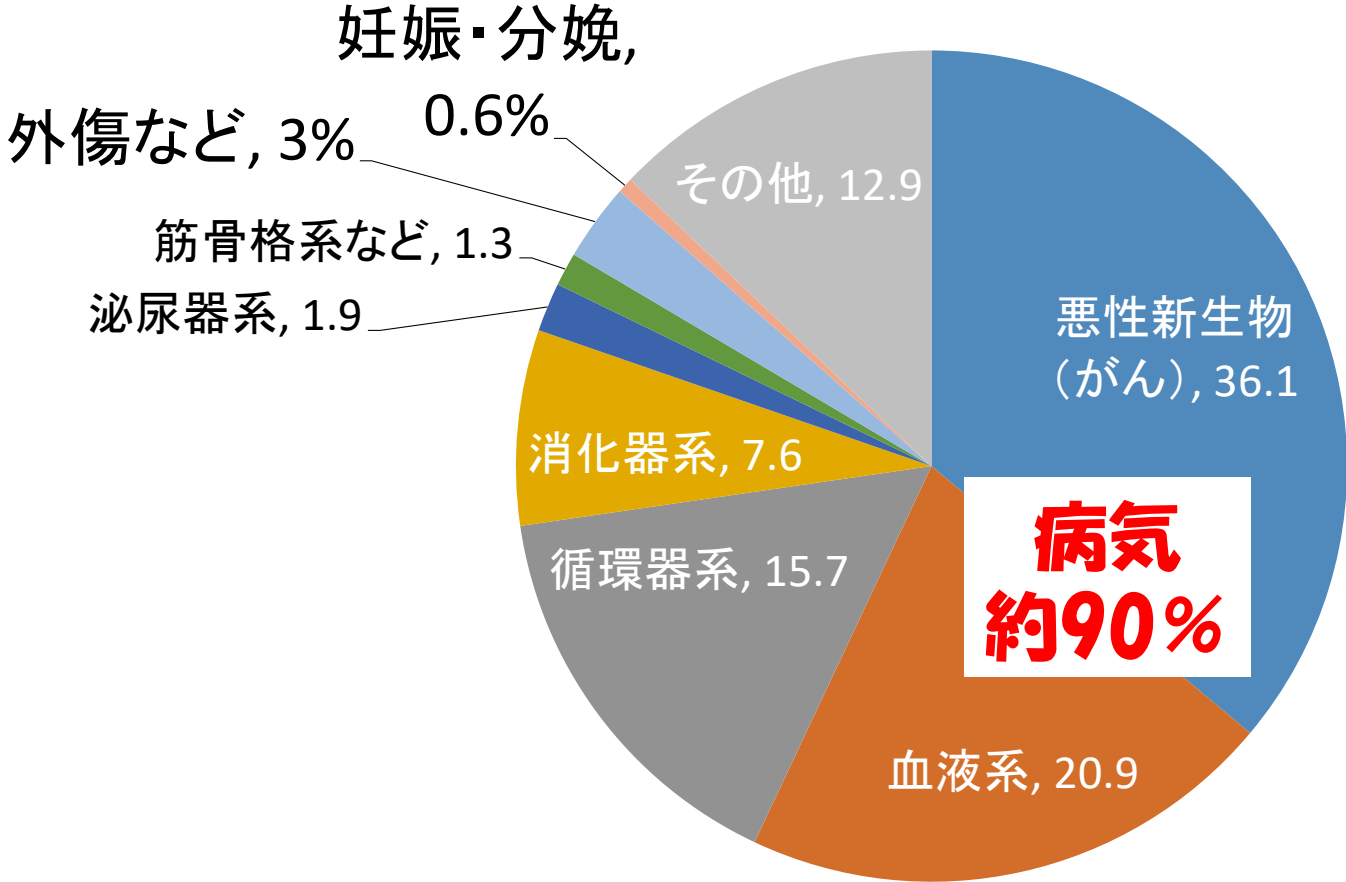
けがの治療



病気の治療

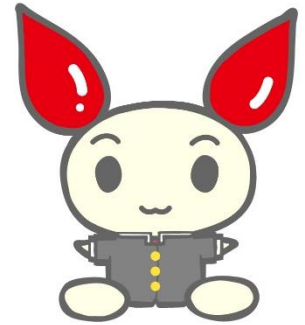
実際に輸血を受けた人は  
どちらのケースが多いと思いますか？

全国で1日に約3,000人の人が、  
1年間に約100万人の方が輸血を受けています。





# 献血の種類



# 献血の種類

## 全血献血

血液のすべての成分  
を献血する方法

400mL 献血

200mL 献血

## 成分献血

血液中の血小板や  
血漿だけを献血する  
方法

血漿成分献血

(献血ルームのみ)

血小板成分献血

(献血ルームのみ)

# 採血基準



## 400mL 献血の主な基準



年 齢	男性17歳～69歳※
	女性18歳～69歳※
体 重	男女とも50kg以上
年間総献血量	男性1,200mL以内(3回まで)
	女性800mL以内(2回まで)

※65歳以上の献血については、献血される方の健康を考慮し、60歳～64歳のあいだに献血経験がある方に限ります。

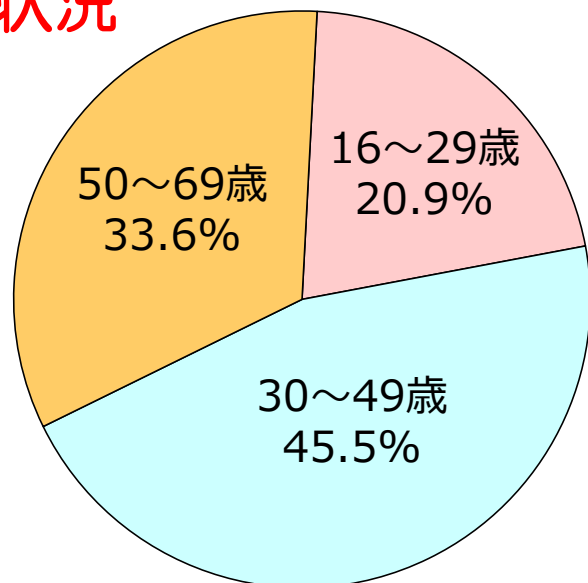
# 熊本県内の献血状況について



# 県内の年代別献血者数（平成28年度）

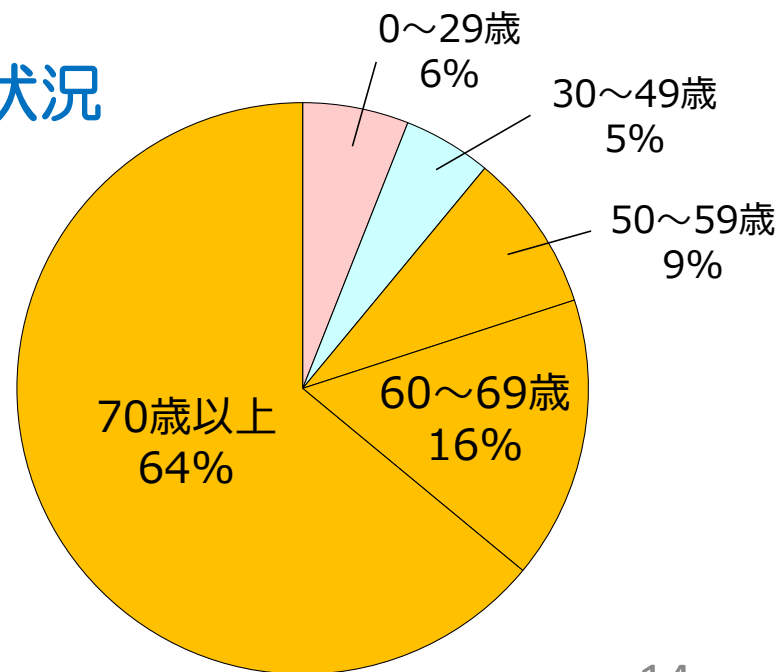
62,091人					
16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳
3,983人 6.4%	8,978人 14.5%	11,881人 19.1%	16,382人 26.4%	14,516人 23.4%	6,351人 10.2%

## 献血状況



(平成28年度 熊本県)

## 輸血状況



(平成21年 熊本県)

# 県内の人口の変化

総人口は年々減少していますが、輸血を主に使用する60歳以上の割合は確実に増加しています。献血可能人口が減少することにより、将来的に慢性的な血液不足の発生が危惧されています。



(単位:人)

	14歳未満	15~19	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
H23年度	249,787	91,677	175,867	217,542	213,340	247,929	252,270	364,090
H27年度	243,851	86,640	160,408	202,373	217,698	227,159	270,495	377,494
増減数	-5,936	-5,037	-15,459	-15,169	4,358	-20,770	18,225	13,404

総人口

60歳未満の人口

60歳以上の人口及び割合

H23年度 1,812,502人

1,196,142人

616,360人(34.0%)

H27年度 1,786,118人

1,138,129人

647,989人(36.3%)

増減数

△26,384人

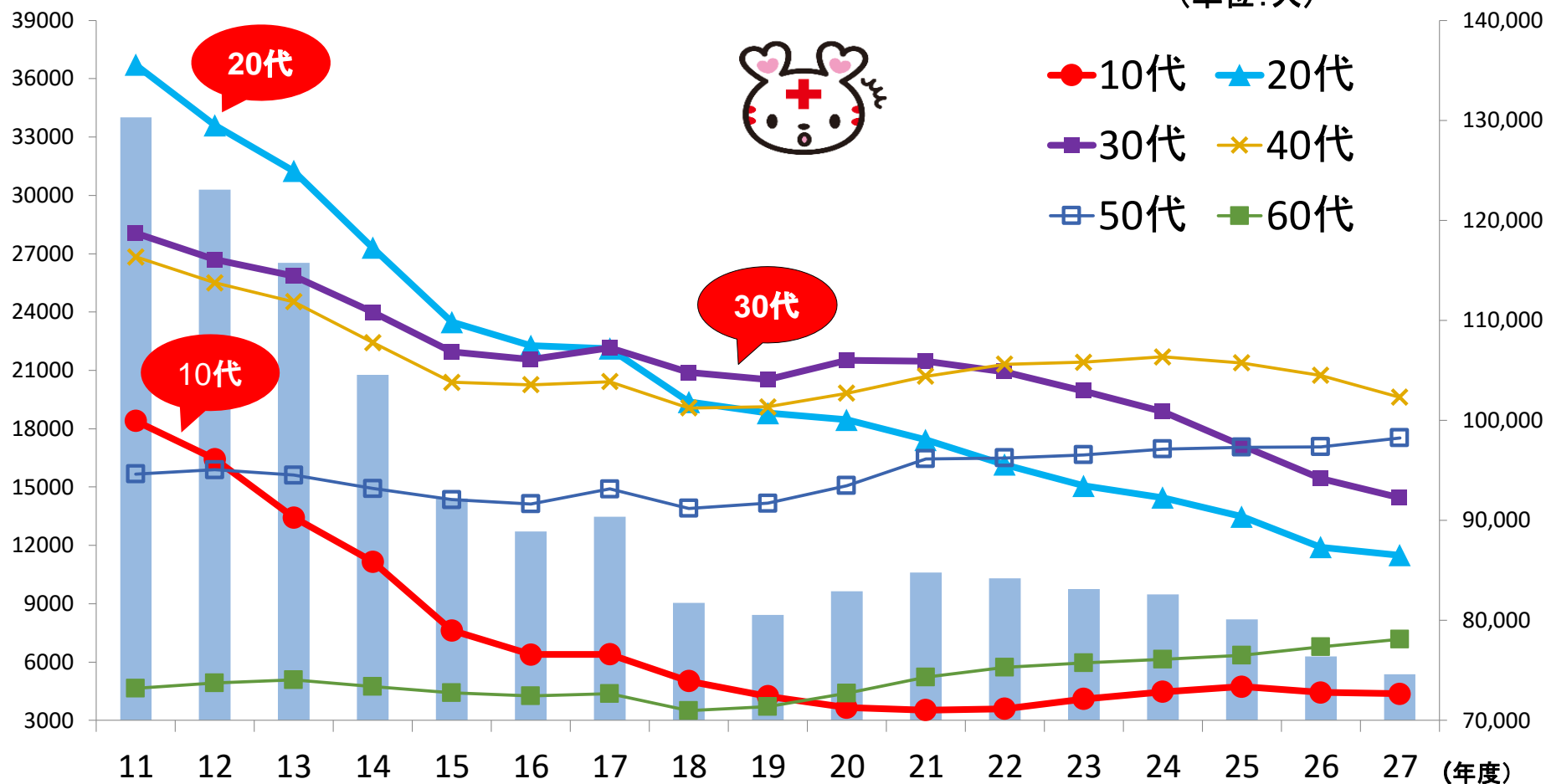
△58,013人

31,629人(+2.3%)

# 県内の年代別献血者数の推移

(年代別献血者数)

(総献血者数)



※H27-H11

【10代】△14,037人 (76%減)

【20代】△25,214人 (69%減)

【30代】△13,625人 (49%減)

【40代】△7,221人 (27%減)

【50代】1,865人 (12%増)

【60代】2,525人 (54%増)



# 少子高齢社会を迎えて

- ・輸血用血液の約9割は、50歳以上の患者に使われている
- ・献血いただいている方の約7割は50歳未満
- ・若年層(10代・20代・30代)の献血者数は減少傾向にある



**今後の安定供給のためにも、特に若い世代の献血へのご理解とご協力が不可欠になります。**

# 「献血推進2020」 ～献血推進に係る新たな中期目標～

将来の血液の安定供給体制を確保するため、平成27年度から平成32（2020）年度までの6年間の中期目標（10代～30代の献血率の目標値）を設定

（献血率・・・各年代の人口に占める献血者の割合）

## 平成32(2020)年度までの達成目標

10代	20代	30代
7.0%	8.1%	7.6%

## 熊本県内の10～30代献血率の推移

	10代	20代	30代
H26年度	5.0%	6.7%	7.1%
H27年度	5.0%	6.6%	6.8%
H28年度	5.7%	5.3%	5.7%

※平成28年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）から算出

# 若年層献血者確保対策について

## ● 若年層対策の強化

### ① 10代への働きかけ

献血への理解を深めてもらうことにより、初めての献血を安心して行っていただくため、県内の高等学校へ出向いての「献血セミナー」の開催や「高校献血」を実施させてもらうよう、積極的に学校へ働きかける。

⇒**初回献血者の確保**

### ② 20代・30代への働きかけ

20代・30代は、リピートドナーにならずドロップアウトする方が多いため、献血を体験した方が、長期にわたり複数回献血に協力してもらえるように普及啓発、環境整備に取り組む。

また、企業などへの働きかけを一層強化し集団献血を行うことにより、安定的な献血者の確保を図る。

⇒**複数回献血者の確保**

## 高校献血セミナー実施率

平成27年度

全国平均 10.0%  
熊本県 15.4%  
(78校中、12校)



平成28年度

熊本県 **25.6%**  
(20校)

## 高校献血実施率

平成27年度

全国平均 25.1%  
熊本県 29.5%  
(78校中、23校)

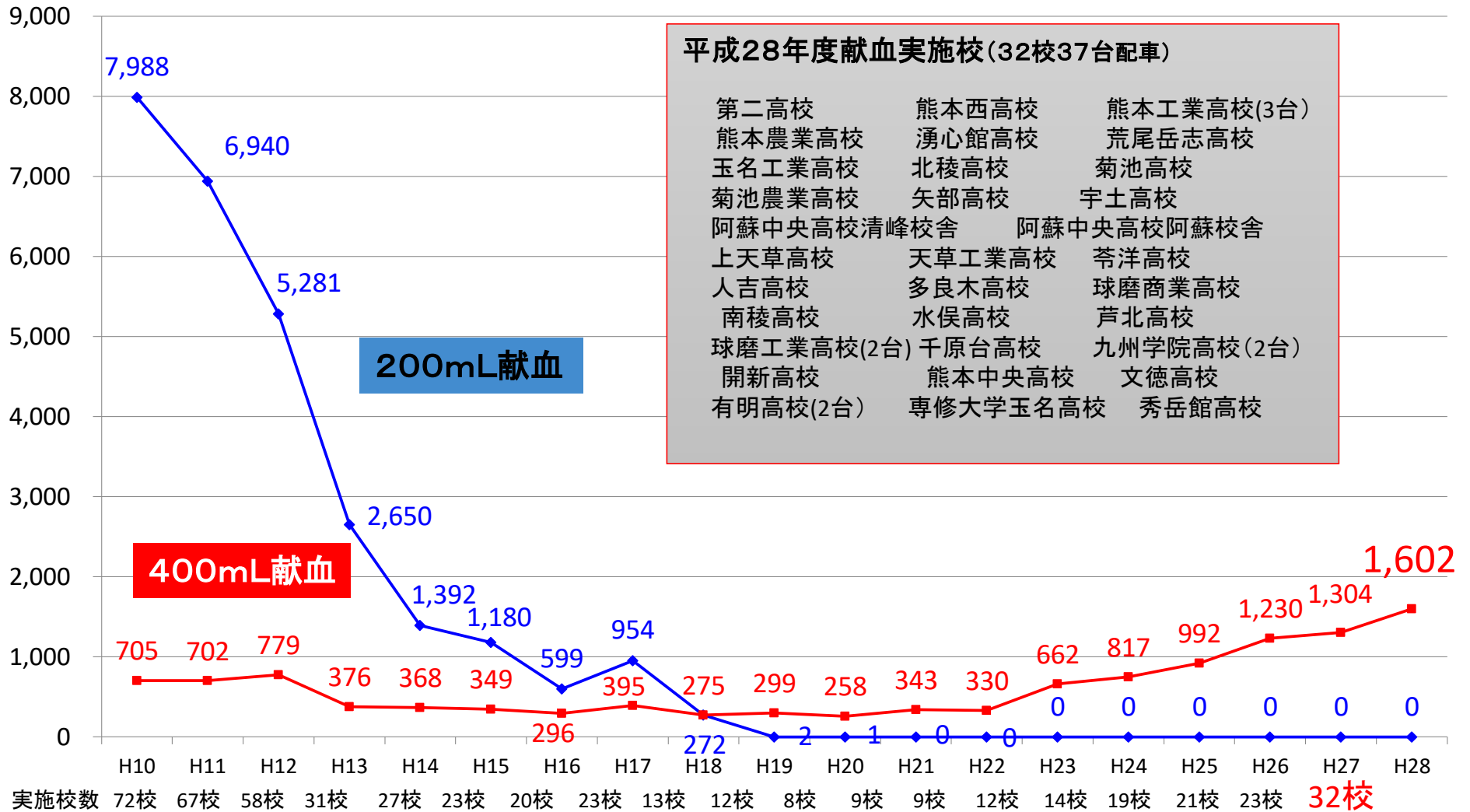


平成28年度

熊本県 **41.0%**  
(32校)

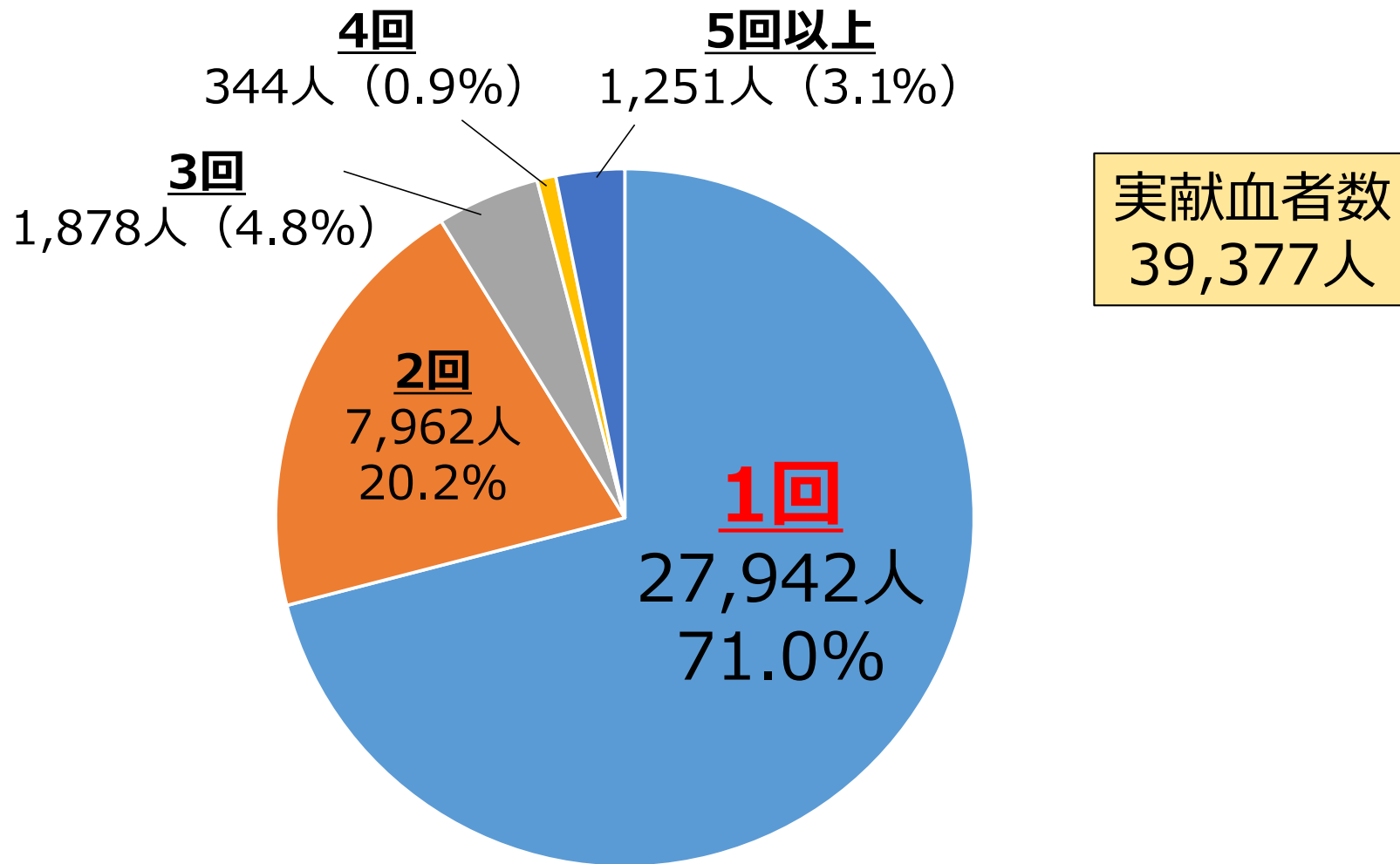


# 県内高等学校献血実績の推移 (H10年度～)



■ 23年4月から採血基準改正により、17歳男性に限り400mL献血が可能となったことから推進を強化。  
 ■ 平成28年度の献血実施校は32校。(前年度より9校増加。)  
 ■ 高校への推進活動は行政(県・保健所・市町村)やライオンズクラブ・日赤が一体となり積極的に行っている。

# 県内の複数回献血者数（平成28年度）

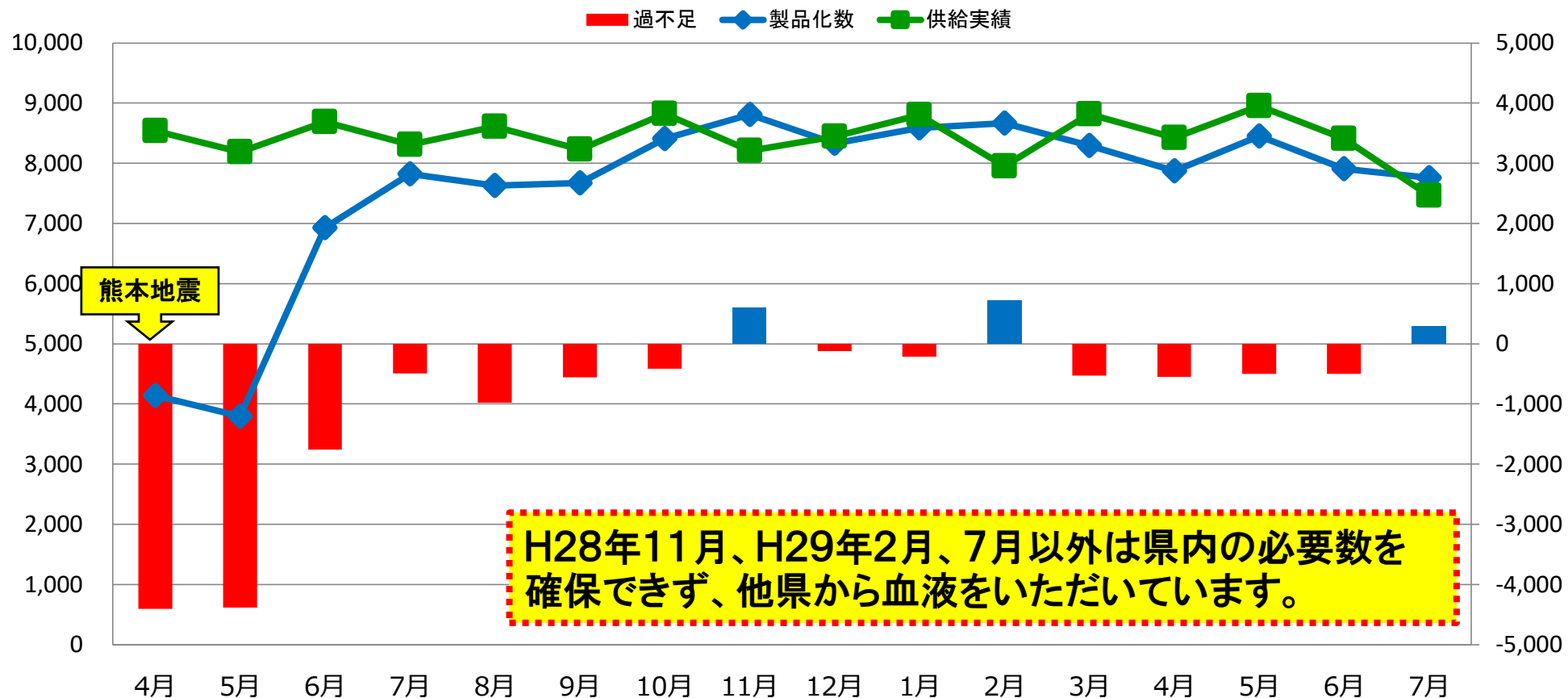


(実献血者数に占める複数回献血者の割合)

# 県内における赤血球需給バランス（平成28年4月～平成29年7月）

実績（単位）

過不足（単位）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
製品化数	4,137	3,798	6,930	7,821	7,629	7,676	8,408	8,813	8,327	8,586	8,667	8,292	7,873	8,451	7,909	7,760
供給実績	8,541	8,184	8,686	8,310	8,608	8,230	8,822	8,209	8,445	8,801	7,952	8,820	8,422	8,953	8,407	7,462
過不足	-4,404	-4,386	-1,756	-489	-979	-554	-414	604	-118	-215	715	-528	-549	-502	-498	298

# 献血は、身近にできるボランティアですが・・・

実は小さな善意どころではなく、人命に直結している、とても重要なものです。

そしていつか、自分や自分の大切な人が献血された血液で命を助けられることになるかもしれません。

